



第5回

聖和学園短期大学キャリア開発総合学科

永野 篤 学科長が語る「学びの魅力」

前回、聖和学園短期大学保育学科中島 恵 学科長が語る「学びの魅力」についてお伝えしました。お話を聞いている中で、実は、聖和学園短期大学にはもう一つキャリア開発総合学科という学科があることを教えていただきました。

新企画第5回は、「聖和学園短期大学キャリア開発総合学科とは・・・?」です。

(1) 進学先を検討するにあたり、考えておくこと。入学後に伸びる学生とは・・・?

「地域総合科学科」変化に適応していくために。自分らしく生きていくために。自分を伸ばすために。

キャリア開発総合学科というのは、聖和短大が開学(1951年)した際にはなく、国文科と被服科で、女性を対象とした教養と生活に役立つ教育がありました。それが、その時代のニーズに合ったものだったからです。しかし、女性は家庭にとどまっているだけではなく、パートをして家計を支えるようになり、やがて、正職員・正社員として働くことが当たり前の時代を迎えるようになってきます。こうした時代の変化に対応し、開学以来半世紀を経て、キャリア開発総合学科が誕生したのです(2005年)。

皆さんは、「リベラル・アーツ」という言葉をご存知でしょうか?一般的には「教養」と訳されていることが多いかと思いますが、語源的には、人間を自由(liberal)にする技(arts)という意味になります。日本では高校を卒業すると多くの場合、就職、または、進学を経て就職することになります。仕事をしないと生きていけないからです。では、仕事をしないと自活することができないから、仕事をするのでしょうか?そうした側面があることは否めませんが、果たして、それで人は幸せに生きていくことができるのでしょうか?

キャリア開発総合学科は、生きていくため、という義務的な仕事の束縛から、自分を解放し、自分を活かせる、自分が幸せになれる仕事を選択できる「技」が習得できるようにと構成されています。そのような領域は、実学、とも言われています。実学の分野は、実生活に役立つ学問ということで、4年生大学に設置されている工学、医学、薬学、農学、法学、経済学、教育学などを指すことが多いようです(諸説あり)。しかし、「即戦力」として役立つかが重要という企業・産業側が想定するイメージではありません。文学部を卒業した学生が、IT系企業に入社し半年間プログラミング研修をする、つまり、大学での学びは全く役になっていない、ということが起こったりするのです。

そして、一度獲得した知識や技能というものは、企業や社会にとって必ずしも永遠に必要とされつづけるわけでもありません。そうなった時の備えとして、次の3つが新社会人たちには求められると考えられます。

1. 複数の技能の習得。
2. どんな変化があっても絶対に必要な知識・技術。
3. 変化に適応し学びつける力。

聖和短期大学では、2年間の中でこうした力を育む学びを実現していきます。更に、2年間での成果だけではなく、10年後、20年後といった将来を見据えて貪欲に学ぶ方は、人生そのものを一層豊かにしていくことができますでしょう。

(2) 所属する大学の一押し情報と魅力

《9つの系》

キャリア開発総合学科には、医療事務、介護福祉、カフェ・フード、観光、司書・公務員、スポーツ、製菓、ビジネス情報・金融、ファッションという9つの系(コース)があります。これらは、学問の領域で分けられた分野ではなく、地域のニーズに合った現実の仕事を想定した実学となっているのです。つまり、自分の「好き」を仕事にし、自分を「活かす」ことが可能になるのです。授業として、239の専門科目(76のフリー科目)があり(その他、保育学科との共通教育科目もある)、幅広く学ぶことができます。

その際、学習内容がある程度体系的にまとまりがあった方が、その分野の造詣を深めたり、資格の取得に役立つなど、利点があります。こうしたまとまりのことをユニットと名付け全部で30用意しています。

学生は、このユニットを組み合わせることで、学びの範囲を特定していきます。(科目数/ユニット数は令和元年度)

《分野を超えた学びが可能》

キャリア開発総合学科の最大の特徴かつ魅力は、このユニットを9つの分野を超えて選択ができることです。

「コース」という名称ではなく、「系」という言葉をつかっているのは、この柔軟さを表しています。

学生は複数系からユニットを組み合わせ、自分の進みたい未来にむけたカリキュラムを構成するのです。例えば、医療事務を軸にして「医療ベーシック」「医療事務補助」を選び、カフェ・フードから「フードコーディネーター」を、ファッションから「ファッション・ビジネス」といったユニット群を選び、更にフリー科目から「MOS検定」「プレゼンテーション演習」「スノーボード実習」などを追加したりします。

《進路の修正も可能》

自分には、どのような仕事や学びが合っているのか、というのは、実際にそれに触れてみるまでは、わからないことが多いと思います。最初に決めたことを最後までやり遂げる、ということは重要かもしれませんが、無理に続けることは必ずしも得策ではありません。もし、自分には合っていない、という状況になった場合には、新たな選択肢を志向することが可能です。ゼミ(クラス)の担当教員と慎重に相談しながら、進路の変更に合わせてカリキュラムを再構成します。本来であれば、1年次に習得しているべき科目でも、2年次になってから授業を受ける、という調整を行うこともあります。



(3) 高校生に望むこと。アドバイス

《本質的な学びが役にたつ》

各系での学びは、専門的ではある反面、他の分野でも応用が利くようになってきています。例えば、医療事務系の授業は、専門的な学びとして医療や人体について学ぶことはもちろんですが、物事の的確な理解や、正確で迅速な対応ができる訓練を行っているともいえます。就職活動の中では様々な出会いがあります。呑み込みが早く、機転が利く人材であれば、思ってもみなかった分野での採用につながることもあります。医療事務を学んでいたある学生は、そのようにして日本でも有数の自動車会社への就職が決まりました。

《コミュニケーション力を高めよう》

企業が就活学生に求める資質として重要視しているNo.1はコミュニケーション力です。他人の話をよく聞き、理解し、尊重し、その上で、自分の意見も、きちんと述べることです。しかし、これができない大学生が非常に多いということが問題になっています。学科では1年次には、5~6人が組みになって7週間ほどだけ企業を取材し、その内容を加工し、最終的に発表し、優勝チームを決めるという授業があります。これは系を超えた学科必修です。系が異なる、つまり、志向の異なるメンバーと共に、数か月にわたり協働することは、なかなか大変ですが、互いを尊重し融和を保ちつつ、目的達成に向けて粘り強く、乗り越えてゆくのですが、こうした活動を通じて、4年生にも負けないコミュニケーション力を身に付けてゆけるのです。

《チャンスを逃さず、食欲に、グローバルに。》

授業を受け、テストで良い点をとることは、大切かもしれませんが、そのために一生懸命に記憶をすることもあっていいでしょう。しかし、より大切なのは、学びを記憶していることではなく、活かすことです。例えば、PCのスキルは委員会活動での文書作りに、スポーツ指導の学習をキッズサッカークラブで発揮するなど、機会は常に存在しています。チャンスを利用しスキルを磨いて下さい。公務員試験対策講座という授業もありますが、系を超えて全ての学生が選択できます。より幅広く深く学び一般企業への就職活動にも役立ててください。R1年度からは短期語学留学の支援制度が導入され早速2名の学生が韓国へ留学しました。今できることを今する。そのようにすることで、成長が実感できます。そして、卒業後も学び続けて下さい。

キーワードは「なぜ、学ぶのか?」

「地域総合科学科」に関する情報は、文部科学省のサイトにあります。また、キャリア開発総合学科担当者の方から、自分だけの時間割表をWEBからシミュレーションできますので、是非、お試くださいとのことでした。QRコードを最後に紹介します。

《文部科学省》



《カリキュラム》

